

写真で見る浪曲人生

春日井梅鶯

最終回

「大家の先生はみんな芸も人柄も个性的でした」



文・おさだ衛

人の一生は出会った人と作る歴史だ。尊敬やあこがれ、喜びと悲しみ、愛と憎しみなどが彩る人生のカンパスは濃淡が激しいほど豊かな境涯といえる。「写真で見る浪曲人生」は今回が最終回。梅鶯師に、人生の恩人、忘れがたい先輩について語ってもらった。

※

「寿々木米若先生は私の第二の父ともいえる、お世話になった方です。穏やかで、えらぶるところがなく、人に教えるときも礼をもってする方でした。米若先生のあの声は黄金の声というか、形容の出来ない素晴らしい声でしたね。浪曲界の最高峰です。」

父とは芸のライバルで親友でもありました。私をたいそう可愛がってくれました。というのとは私と同年の娘さ



初代・梅鶯(右)と寿々木米若。「米若先生は盆栽が好きで万年青(おも)を育てていました。米若万年青なんていって、とても高価なものだったようです」

んがいらして、先生は大変な娘おもいでした。その寿美子さんと私を前に「人間は苦境に立つときこそ親身になりなさい。それが本当の友情だよ」とおっしゃった言葉が忘れられません。寿美子さんは52歳の若さでこの世を去りました。お葬式で先生に向かつて「先生より早く先立つとは、なんて親不孝な寿美子さんでしょう」と泣いた日が昨日のここのようです。

木村友衛先生は威勢のいい関東節でした。大家と呼ばれる方は例外なく品の良い方でした。よく私どもの家に見にいらつしゃいました。お酒が大好きでした。酔うと針を持ってこさせて、長い針を何本も飲んで一緒に飲んだ糸に通して口から出すんです。私が針が声帯に刺さったらどうしようかと心配してはらはらしているのを楽しんでいましたよ。

ドスの利いた良い声は二代目の玉川勝太郎先生です。利根の川風と声を押さえてうなると、本当にその場に川風が吹いてくるんですよ。名人でした。私には「あんたは下品な芸を覚えちゃいけないよ」と会うたびにおっしゃってました。

京山幸枝若先生は楽屋ではどこまで冗談が本気かわからないことをいう愉快な先生でした。豪快な反面、細かな心づかいもあった方です。交通事故を起こして奈良で謹慎しているとき、お

見舞いに行きました。お寺の大きな房にひとりでいましてね。『芸能界は冷たいもんで、いままでチャホヤしていたのが一人もよりつかん』と嘆いていらっしやいました。毎晩、札束を懐にして取り巻きを連れて飲んでいた先生だけに私は淋しい思いでその言葉を聞きました。

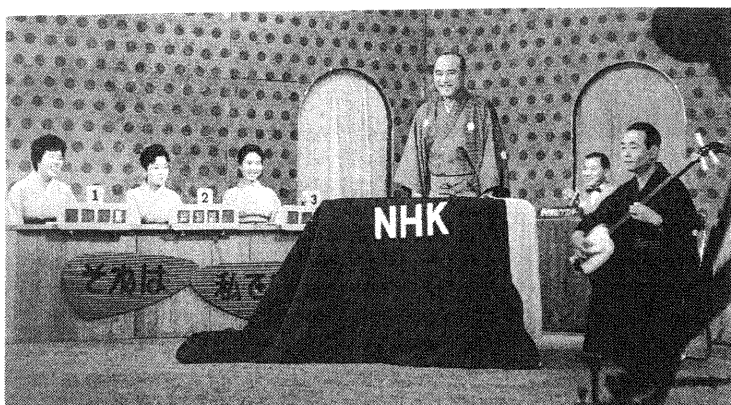
初代の東家浦太郎先生も私の恩人です。私は心ならずも父親から独立しましたが、いかんせん春日井加寿子の看板は小さかったのです。浦太郎先生に



昭和37年のハワイ巡業、ホノルルの日本料理店にて。初代・梅鶯の左は米若の愛娘の寿美子さん。「ハワイは空気が澄んで、やしの木が多く南国に來たと思えましたよ。一世、二世の方に大歓迎されました」

二枚看板で協力をと、お願いしたら快諾してくれました。どれだけ助かったことでしょう。感激しました。心が大きくて、人の悩みを真剣に聞いてくれました。

浦太郎先生にはある大会のとき、「加寿ちゃん、時間が3分のびたね」といわれました。持ち時間が決まっているのに私は長いほうがファンサービスと思っていて、他の先生に迷惑がか



昭和28年、NHKの人気番組「それは私です」に出演。父の梅鶯も一節うなった。曲師は松下信太郎。

かるとは考えが至らなかったのです。昔の先生はあまり教えないものですが、そういう一言が大切な教えと胸に刻みました。先生は現在、身体がご不自由ですが、先日、先生から電話が来て「加寿ちゃん、手紙を書こうにもペンが持てないんだよ」といつてました。ぜひ、また元氣になってほしいですよ。

天中軒雲月先生は仕事熱心で熱血漢でした。旅にいくと朝はやくから「おはようございます」と起こしにくるんです。女は朝はいろいろ支度があるのに、先輩が後輩を起こしに来るのでから恐縮したり困ったりしました。雲月先生には「私は悪声で、声をこわしてもこわさなくても同じ声だ。あんたも、そうやな」といわれて、ほめられているのか、けなされているのかわか



昭和51年。地元、千葉県原市で一日警察署長をつとめた。「警察には容姿端麗な婦警さんが多くて驚きました。この制服は特別にいただきました」

51/52

りませんでしたよ。ははは。雲月先生、浦太郎先生もマージャンがお好きでよく卓を囲みましたよ。浦太郎先生のマージャンはプロ級のうまさでした。年季が違いましたね。

二代目の広沢虎造先生、松平国十郎先生などいろいろ思い出もあります。先生などいろいろな機会に譲ります。

なんといつても忘れられないのは父であり、師匠であった初代・春日井梅鶯です。ころならずも独立し、別れにはなりましたが、私が浪曲師としてやってこられたのも初代のおかげです。初代の教えを後輩に伝え、これからも浪曲界を隆盛にするためにすこしでも、お役に立ちたいと思っております」

(おわり)



昭和44年のハワイ巡業。ご亭主でマネージャーの中垣幸雄さんと。「結婚して40年になりますか。主人が陰の人に徹して心身ともに支えてくれて二人三脚で、がんばってききました。ありがたいことです」